

アマミノクロウサギ観察小屋

アマミノクロウサギは、徳之島とその隣の奄美大島のみに生息する夜行性の種です。黒い毛皮、短い足、穴掘に適した大きな爪を持ち、ずんぐりした体をしています。かつて大陸部のアジアを闊歩していた先史時代の祖先と繋がりがあり、体長およそ 50cm、最大体重 3kg まで成長します。アマミノクロウサギは森に生息し、草や大きなどんぐりを主食とします。多い時で年 2 回繁殖し、うさぎとしては珍しく、一度に 1 頭だけ（時に 2 頭）子を産みます。母うさぎは、採餌に出かける際、巣穴の入り口を土で覆い、植物でカモフラージュします。母うさぎは子うさぎと離れて生活し、平均して一日おきに巣穴に戻って世話をします。

環境圧

捕食者がほとんどいなかったアマミノクロウサギは、比較的最近まで生息を脅かされることがありませんでした。野良犬と野良猫の増加は、高まり続ける脅威です。また、土地開発によりアマミノクロウサギの生息域が侵され、多くの個体が移動中に車に轢かれました。アマミノクロウサギは 1963 年に国の天然記念物に指定され、2004 年には環境省によって希少野生動物に指定されました。保護活動が功を奏し、推定 200～300 頭の個体数は安定を示しています。

アマミノクロウサギの観察

保護活動の主要拠点は、展示を行っており、アマミノクロウサギの生態を研究する施設の役割も担っているアマミノクロウサギ観察小屋です。小屋の付近と小屋に隣接する南部ダムの上に設置されたビデオカメラがウサギたちの様子を撮影しており、小屋の中で映像が見られます。この映像は、毎月のハイライトをまとめたダイジェストとともに毎晩深夜から午前 6 時まで地元のケーブルテレビで放映されています。ウサギたちの好む植物の一部が小屋の周りに植えられており、職員はウサギたちがこのあたりに来るよう促すためのトンネルをつくりました。アマミノクロウサギは夜行性なので、日中姿を目にすることはまずありません。アマミノクロウサギ観察小屋は、COOL JAPAN AWARD 2019 National Park 部門を受賞しました。

行き方

アマミノクロウサギ観察小屋は、車で空港から約 25 分、天城町役場からは約 15 分の当部の山林にあります。小屋では職員が付き添う必要があるため、事前に町役場に電話して予約してください（0997-85-5178）。通常の開庁時間中は問い合わせが可能ですが、対応は日本語のみです。アマミノクロウサギを見られる可能性が最も高いのは、おそらく夜間の動物観察ツアーです。現地ガイドが、観察小屋への道を含む山道を車で案内してくれます。